



LIFE IN AMERICA



NO.8, MARCH, 2018

龍野北高校の皆さん、こんにちは。もう春休みですね。

今回は少しシリアスな話題ですが、アメリカの銃規制について書きたいと思います。先月、フロリダ州のマージョリー・ストーンマン・ダグラス高校に武装した男が押し入って銃を乱射し、生徒ら少なくとも 17 人が死亡するという事件が起きました。日本でもニュースになったでしょうか。

アメリカではこの事件以外にも、1999 年にコロラド州コロンバイン高等学校にトレンチコート・マフィアと自称する同校の生徒 2 名が銃を乱射、12 名の生徒と 1 名の教師を射殺し、両名は自殺するという事件が起きており、そのような事件が起こる度に銃規制が叫ばれています。

また、このような事件が頻繁に起こることから、アメリカの学校や会社では日本で火災訓練、地震訓練があるのと同じように、**Lock Down Drill** (ロックダウンドリル) という訓練があります。これは学校内に不審者 (銃所有者) が侵入した時に備えて、子供や先生達が安全な場所に逃げこみ、部屋をロック (完全閉鎖) して待機するという訓練で、以下のような流れで行われます。

1. 一番近くにある、鍵の出来る部屋に逃げ込む
2. 部屋の鍵をし、外から中が見えないように窓などをカバーする
3. 部屋の隅に集まり、体を丸めて小さくする
4. 警察が来るかアナウンスがあるまで、ひたすら静かに待つ



今回事件のあった高校でももちろんこの訓練は行われていましたが、やはり犠牲者は出てしまいました。

なぜこれだけの事件や事故で犠牲者が出ているのに、もっと厳しい規制ができないのでしょうか。州によって多少違いますが、21 歳で ID があり、犯罪歴がなければ、比較的簡単に銃が購入できてしまうというのが現状のようです。この背景には、全米ライフル協会・ラピエール副会長の。「銃を持った悪い人を止めるためには、善良な人に銃を持たせるべきだ」という言葉に表れているように私は思います。身を守るため、という理由から銃を持つ習慣がなくならなければ、特に危険な地域で銃を規制することは難しいだろうと思います。



レドモンド中学校でのロックダウンドリルの様子

を雇えない状況にあるので、教師に銃の訓練を受けさせ、人から見えない状態ではありますが、銃を携帯させることがトランプ大統領自身から提案されたほどです。学校の先生が校内で銃を持ち、事態に備えるべきだというような議論が挙がること自体、日本では想像できませんね。

度重なる悲劇に、たくさんの高校で銃規制を叫ぶ運動が起こっています。私の勤務校でも先日犠牲者の数と同じ 17 分間、生徒たちが外に出て銃規制を願う時間を取っていました。小さな動きかもしれませんが、何とかしなければという各州の高校生たちの思いが感じられます。皆さんはどう思いますか？ 皆さんだったらどんなアクションを取りますか？



銃規制を求めるデモの様子